

令和 2 年 6 月 4 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K04056

研究課題名(和文) 思春期の情緒的自律性の発達と親子の相互信頼感、相互調整的態度変容に関する研究

研究課題名(英文) A study on the relationships among early adolescents' emotional autonomy, mutual trust, and mutual regulation between children and mothers

研究代表者

平石 賢二 (Hiraishi, Kenji)

名古屋大学・教育発達科学研究科・教授

研究者番号：80228767

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、思春期年代の子どもとその母親を対象にした質問紙調査により、主として思春期における情緒的自律性の発達と母子の相互信頼感、心理的適応の関連に検証した。調査の結果、思春期の子どもが母親に対して心理的に分離することを意味する情緒的自律性は健康な発達の指標というよりもむしろ、母子の関係性の悪さなどと関連していることが明らかになった。また、思春期の親子関係においては相互信頼感が重要な指標であり、相互信頼感が媒介して、子どもの心理的適応に影響を及ぼすことが明らかにされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本においては、思春期の子どもの発達に関して心理的自立を重視する傾向があるが、本研究の情緒的自律性に関する知見は、親子の良好な関係性を基盤にしていない心理的自立は思春期の健康な心理社会的発達においてマイナスの側面があることを示すことができた。このことは思春期年代の子どもの理解をさらに深めることにつながり、特に家庭と学校における思春期教育において有益な知見になる。また、相互信頼感の概念は従来用いられてきた信頼にさらに相互性の観点を付け加えたものであり、新しい概念である。この概念に関してはまだ僅かな研究知見しか出ていないため学術的意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research project was to examine the relationships among early adolescents' emotional autonomy, psychological adjustment, and mutual trust between children and their mothers. Several cross-sectional and longitudinal questionnaire surveys were conducted. The results suggested that emotional autonomy in early adolescence was significantly related to negative relationships between children and mothers, and negatively related to mental health mediated by them. In addition to this, the results showed that perceived mutual trusts by early adolescents and their mothers were significantly predicted each other and were very important factors related to other independent and outcome variables.

研究分野：青年心理学

キーワード：思春期 母子関係 情緒的自律性 相互信頼感 心理的適応 相互調整的態度変容

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究課題を開始するにあたっては、以下の3つの点について研究の課題が認められた。

情緒的自律性の発達に関する論争：日本においては、思春期の親子関係は子どもの自我発達に伴って、反抗や葛藤が生じるのが健康な発達の特徴であり、それらが見られないのはむしろ問題であるという考えがしばしば述べられてきた。思春期の自我発達の代表的な指標としては、情緒的自律性(emotional autonomy)の概念を挙げることができるが、これは子どもが親から心理的に分離し、親に対する脱理想化が生じることを意味している。しかし、当初は健康な発達の指標としてとらえられていた情緒的自律性が、その後の実証的研究によって心理的不適応の指標との関連もあることが報告され、情緒的自律性は必ずしも健康な発達の指標とは言えないのではないかという論争が生じている。日本においては、この情緒的自律性に関する実証研究が乏しく、思春期の親子関係に対する理解が十分とは言えない状況にあった。

思春期の親子関係における相互信頼感の重要性：研究代表者らは、これまでの研究を通じて、思春期年代の子どもの心理的適応に影響を与える重要な要因として、親子の相互信頼感に着目し、実証的研究を重ねてきた。そして、これまでの研究により、親子の相互信頼感と親の養育態度と子どもの心理的適応との関連を媒介する変数であることを示唆してきた。しかし、親子の相互信頼感が子どもの情緒的自律性とどのように関連するのかは明らかにしてこなかった。そこで、本研究では、子どもの情緒的自律性と心理的適応の間にある媒介効果が認められるかを検証することにした。

親子の相互調整的態度変容：思春期、青年期の親子関係においては、古くから親子の双方が相手に対する態度を変化させていくという共変関係や相互調整的な関係の変化があると指摘されてきた。しかし、その相互調整的な態度変容の具体的な特徴については、十分に検討されてこなかった。

2. 研究の目的

本研究においては、以下の3つの点について検討することを目的とした。

(1) 思春期における情緒的自律性の発達の意義：思春期における情緒的自律性は親子関係にどのような影響を及ぼすのか、また、子ども自身の自尊感情や精神的健康に与える影響は如何なるものか、について明らかにする。そして、情緒的自律性の個人差は何に起因するのか、情緒的自律性の発達の規定因について探索的な検討を行う。

(2) 思春期の親子関係における相互信頼感の発達の意義：思春期の親子関係における相互信頼感が、子どもの情緒的自律性と心理的適応の関連に及ぼす影響について検討する。特に媒介変数または調整変数として機能しているかどうかを検証する。また、相互信頼感に関連する他の諸要因を探索的に明らかにする。

(3) 思春期の親子関係における相互調整的態度変容：思春期の情緒的自律性の発達によって親と子どもにどのような態度変容が生じるのか、相互調整的な関係性という視点から探索的に仮説モデルを生成する。

3. 研究の方法

(1) 研究 I - 情緒的自律性と相互信頼感に関する基礎的研究

情緒的自律性に関する基礎的研究：2018年10月から11月中旬まで、私立大学3校、国立大学1校に在籍する大学生498名(男子284名、女子208名、不明6名)を対象にした質問紙調査を実施した。測定内容は、情緒的自律性(情緒的分離)、親の養育態度(養護と過保護)、親に対する言動抑制、アイデンティティ、精神的健康度であった。

相互信頼感に関する基礎的研究：本研究課題に先立って実施された横断調査および継続中であつた縦断調査のデータを利用し、本研究課題における中心的な概念である相互信頼感と親子間葛藤の特徴および関連について分析した。横断調査は2013年10月から11月にかけて、小学

校5年生から中学校3年生(男子761名,女子850名,不明1名)までとその母親1612組から得たデータの再分析である。調査内容は母子双方に対して,相互信頼感,親子間葛藤,精神的健康度,母親の養育態度,心理的ストレス反応を測定する心理尺度を実施した。縦断調査では,小学校6年生とその母親を対象にして2014年12月から2016年12月まで年1回合計3回の調査を実施し,235組の母子から3回分の回答を得た。調査内容としては,横断調査と同様に母子双方に対して相互信頼感,親子間葛藤,精神的健康度,母親の養育態度などを測定する心理尺度を実施した。

(2)研究Ⅱ-情緒的自律性と相互信頼感等に関する縦断研究

第1回調査:2020年2月に株式会社NTTコムオンラインにモニター契約をしている母親とその子ども(中学生2年生)を対象にしてオンライン調査を実施し,1,050組の母子(子ども性別は男子515名,女子533名,その他2名)から回答を得た。調査内容としては,母子共通に精神的健康度,自尊感情,相互信頼感,親子間コミュニケーション(独自性,結合性)について測定する心理尺度を実施した。また,母親に対しては,養育態度(不安定な態度,威厳ある姿勢,主体性の尊重,適切な心理的境界),子どもに対しては,情緒的自律性(情緒的分離)を測定する心理尺度をそれぞれに含めた。

第2回調査:2020年3月に第1回調査から約1ヶ月間隔をおいて,第1回調査と同じ研究協力者にオンライン調査を実施した。その結果,734組の母子(子ども性別は男子317名,女子365名,その他2名)から回答を得た。調査内容は第1回調査と同一である。

4.研究成果

(1)情緒的自律性:研究 の基礎的研究の結果,情緒的自律性はアイデンティティの指標とは全く有意な関連が認められないこと,心理的適応との関連は直接的な影響ではなく,親の養育態度と言動抑制を媒介して間接的に心理的適応に影響を及ぼしている可能性が示唆された。また,情緒的自律性はネガティブな養育態度や言動抑制の状態と関連していた。研究 の縦断調査では,2時点のデータを用いた重回帰分析の結果,子どもの情緒的自律性は心理的適応の指標である精神的健康度と自尊感情とは全く関連を示さず,母子双方の相互信頼感,子どもの母親に対する結合性の表明と負の関連,母親の不安定な態度と正の関連を示していた。以上の結果を総合すると,思春期,青年期の情緒的自律性は心理的適応に直接的な影響を及ぼしてはいないが,親子の関係性にネガティブな影響を及ぼしていることが明らかにされた。また,情緒的自律性を従属変数として,情緒的自律性を有意に予測する変数を検討したところ,母子双方の相互信頼感と負の関連を示していた。そして,子どもの母親に対する独自性の表明は正の関連,結合性の表明は負の関連を示していた。これらの結果は,思春期の情緒的自律性は母子のネガティブな関係によって影響を受ける可能性を示唆している。

以上,研究 と研究 の結果は一貫して思春期の情緒的自律性が必ずしも健康な心理社会的発達の指標とは言えず,むしろネガティブな親子の関係性と関連するものであることを示唆していた。

(2)相互信頼感:相互信頼感に関する研究成果としてはまず始めに新たな尺度開発の成果を挙げることができる。研究 の横断調査のデータを用いて確認的因子分析と項目応答理論に基づく分析を行った結果,12項目の中から情報量の高い6つの項目を抽出することができた。続いて,研究 の横断データと縦断データを用いて,相互信頼感と親子間葛藤,心理的適応の関連について検討した研究成果を挙げることができる。相互信頼感と親子間葛藤の関連については,相互信頼感の低下が親子間葛藤を増大させ,それが心理的適応に負の影響を与えるという媒介

変数モデルと、親子間葛藤が心理的適応に与える影響を相互信頼感が調整するという調整変数モデルなどを探索的に検討した。そして、結論として、相互信頼感と親子間葛藤は非常に高い相関関係にあり、概念的にも分離しにくい双方向に影響する表裏一体の関係にある可能性が明らかになった。研究の結果では、母子の相互信頼感は互いに有意に他を予測する関連を示しており、母子の関係性を評価する上での重要な指標であることが明らかとなった。また、母子の報告する相互信頼感はそれぞれ子どもの精神健康度を有意に予測していた。そして、相互信頼感は情緒的自律性や母親の子育て態度、親子間コミュニケーションの影響を受け、心理的適応との関連を媒介する変数であることも明らかとなった。

(3)相互調整的態度変容：本研究課題では、当初、相互調整的態度変容そのものの構造と機能について明らかにする予定であったが、先行研究の成果の見直しや文献研究の結果、予定を変更し、親子間コミュニケーションの特徴の変化と養育態度の変化を指標として、相互調整的な態度変容が生じているかを研究の縦断調査を通じて検証することにした。結果として、子どもの情緒的自律性の発達に伴って母子双方が親子の良好な関係を維持するための調整的な態度変容を引き起こすという知見は見出すことができず、むしろ関係性が悪化する可能性が示唆された。

(4)本研究の成果と今後の展望：本研究においては、これまで日本において十分に研究が行われてこなかった思春期における情緒的自律性の発達の意義について検討し、情緒的自律性(情緒的分離)の発達は肯定的というよりは否定的な側面を表していることを示したことが大きな成果として認められる。また、母子の相互信頼感が両者の関係性において重要な指標であり、子どもの心理的適応に大きな影響を与えることを検証したことも意義がある。従来、思春期年代の子どもの健康な発達の指標としては自立や反抗に焦点が当てられる傾向が強かったが、自立や反抗には負の側面があることと、親子の親密さの側面を表す相互信頼感が重要で中核的な概念であり、相互信頼感の形成が大きな目標になることを示すことができたことは大きな貢献であると言える。ただし、本研究においては、母子の相互調整的な態度変容の実態については十分に検討ができなかったことが課題として残された。特に思春期、青年期の親子関係における変容は短期的な変化と長期的な変化を区別して理解する必要があるため、長期的な過程の中で生じている親子の相互調整的な態度変容について検討することが今後の研究課題になる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 平石賢二	4. 巻 67
2. 論文標題 親と子どもにとっての自立	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育と医学	6. 最初と最後の頁 172-179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平石賢二	4. 巻 第28巻
2. 論文標題 青年 - 両親関係におけるコンフリクトの多様性とその背景要因 - 白井論文へのコメント	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 青年心理学研究	6. 最初と最後の頁 33-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平石賢二	4. 巻 27
2. 論文標題 青年期前期の親子関係 - 小高・紺田論文へのコメント	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 青年心理学研究	6. 最初と最後の頁 161-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平石賢二	4. 巻 28
2. 論文標題 青年 - 両親関係におけるコンフリクトの多様性 - 白井論文へのコメント -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 青年心理学研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渡邊賢二・平石賢二・谷伊織	4. 巻 31
2. 論文標題 児童期後期から青年期前期の子どもと母親が認知する養育スキルと母子相互信頼感，子どもの心理的適応との関連：母子ペアデータによる検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達心理学研究	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平石賢二	4. 巻 57
2. 論文標題 青年期・成人期・老年期の発達研究の動向と展望	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育心理学年報	6. 最初と最後の頁 15-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 平石賢二・河野莊子・笠井清登・大久保智生・吉澤寛之・齊藤誠一	4. 巻 57
2. 論文標題 準備委員会企画シンポジウム4 思春期における発達と問題行動	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育心理学年報	6. 最初と最後の頁 264 - 272
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 0件／うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Hiraishi, K., Watanabe, K., & Tani, I.
2. 発表標題 A longitudinal study on the relationships among Japanese mother-child conflict, sense of mutual trust, and mother's psychological control in early adolescence.
3. 学会等名 The 16th conference of th European Association for Research on Adolescence (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊賢二・平石賢二
2. 発表標題 思春期の母子間葛藤と養育態度の変化 - 3時点の縦断調査より -
3. 学会等名 日本教育心理学会第59回総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平石賢二・河野莊子・笠井清登・大久保智生・吉澤寛之・齊藤誠一
2. 発表標題 思春期における発達と問題行動
3. 学会等名 日本教育心理学会第59回総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平石賢二・渡邊賢二・谷伊織
2. 発表標題 思春期における母子間葛藤に関する縦断的検討(1) - 変化パターンの類型の観点から -
3. 学会等名 日本発達心理学会第29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊賢二・平石賢二・谷伊織
2. 発表標題 思春期における母子間葛藤に関する縦断的検討(2) - 養育態度と変化パターンとの関連 -
3. 学会等名 日本発達心理学会第29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kenji Hiraishi & Kenji Watanabe
2. 発表標題 The relationship among Japanese mother-child conflict, sense of mutual trust, and child's well-being in early adolescence.
3. 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平石賢二・渡邊賢二
2. 発表標題 児童期後期における養育態度と親子間葛藤(1) - 性差の視点から -
3. 学会等名 日本教育心理学会第58回総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 渡邊賢二・平石賢二
2. 発表標題 児童期後期における養育態度と親子間葛藤(2) - 心理的ストレス反応との関連 -
3. 学会等名 日本教育心理学会第58回総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平石賢二・渡邊賢二・谷伊織
2. 発表標題 思春期の母子間葛藤と養育態度の縦断的検討(2) - クラスター分析による母子間葛藤の類型化 -
3. 学会等名 日本発達心理学会第28回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡邊賢二・平石賢二・谷伊織
2. 発表標題 思春期の母子間葛藤と養育態度の縦断的検討(1) - 時点差と性差に焦点をあてて -
3. 学会等名 日本発達心理学会第28回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平石賢二・渡邊賢二・齊藤誠一・池田幸恭
2. 発表標題 青年期の親子関係における親の発達的変容
3. 学会等名 日本発達心理学会第28回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kenji Hiraishi & Kenji Watanabe
2. 発表標題 Moderating Effect of Sense of Mutual Trust on the Association between Mother-Child and Well-being in Japanese Early Adolescents.
3. 学会等名 17th European Conference on Developmental Psychology (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Kenji Watanabe & Kenji Hiraishi
2. 発表標題 The relationship between Japanese mother-early adolescent conflict, parenting attitude, and psychological adjustment.
3. 学会等名 17th European Conference on Developmental Psychology (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 平石賢二, 渡邊賢二
2. 発表標題 児童期から思春期の母子間の葛藤 葛藤の種類と子どもの心理的適応との関連
3. 学会等名 日本教育心理学会第57回総会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 平石賢二
2. 発表標題 中学生の情緒的自律性と母親の養育態度との関連
3. 学会等名 日本教育心理学会第62回総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平石賢二
2. 発表標題 母親の認知した中学生の子どもとの相互信頼感 - 母親の精神的健康, 自尊感情, 養育態度との関連
3. 学会等名 日本心理学会第84回大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	渡邊 賢二 (Watanabe Kenji) (50369568)	皇學館大学・教育学部・教授 (34101)	